

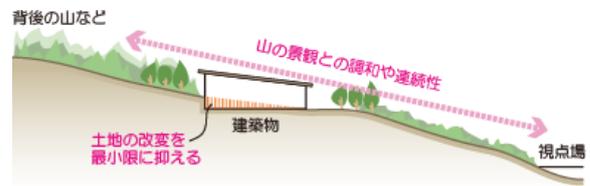
【参考資料：基準の解説】

＜建築物・工作物＞

●配置・規模

山地から平野部、平野部から山地への眺望を阻害しない高さ・配置となるように努める。（山のゾーン）

可能な限り高さは抑えて、眺望に配慮した高さ・配置とする。



地域の景観を特徴づける山地や河川、歴史資源等への眺望を阻害しない高さ・配置となるように努める。（里のゾーン、まちのゾーン）

周辺の建築物や山なみとの連続性に配慮した配置・規模とする。（里のゾーン）

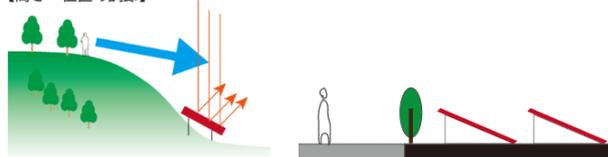
背景となる山なみや歴史資源への眺望を阻害しない高さ、配置とする。



太陽光発電施設を設置する場合は、周辺の景観との調和に配慮するとともに、道路や観光施設などの公共の場所から目立たないように配置等を工夫する。（全てのゾーン）

単独で設置する場合には、道路や視点場の方向にパネルが向かないように配慮し、可能な限り植栽等により目隠しを行う。建築物に付帯させて設置する場合は、屋根の高さを超えない等の配慮を行う。

【高さ・位置の調節】



【単独で設置する場合】

傾斜を合わせる
屋根の最上部を超えない



【建築物に付帯させる場合】

●形態・意匠

背景となる豊かな自然環境に配慮し、外壁に自然素材を使用するなど、周辺の景観に調和するよう努める。（全てのゾーン）

◆推奨する素材

・自然素材（木材、石材、漆喰等） ・瓦 ・レンガ ・窯業系サイディング ・光沢のないタイル 等

◆配慮が必要な素材

・反射が大きな素材（ミラーガラス、無塗装金属板 等）

●形態・意匠

周辺の建築物を大きく超えるような大規模な壁面を避け、周辺の景観に与える影響を軽減するよう配慮する。(全てのゾーン)

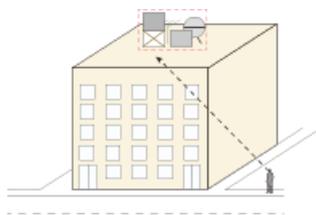
長大な壁面は圧迫感を与えるため、分節化によって変化をつける、分棟化により壁面の面積を小さくするなどして、圧迫感を軽減する。



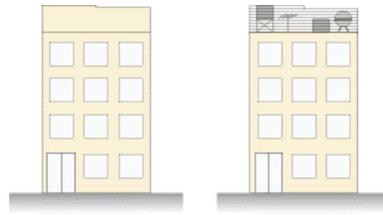
●屋外設備等

道路等の公共の場所から容易に目にするのできる位置には設置しないよう努める。困難な場合は、建築物本体と一体化し、同調して目立たないように工夫する。(全てのゾーン)

配置・目隠し等により、目立たないように工夫する。



目立たない位置に集約して配置する



壁面の立ち上げやルーバー等で目隠しする



壁面と同じ色で塗装する

●外構・緑化

道路等の公共の場所から見える敷地においては、周辺の山林等の自然と調和する外観となるよう、緑化に努める。(全てのゾーン)

敷地の緑化を行う際は、道路等公共の場所から見える場所を優先的に行い、周辺と調和するようにするとともに、樹種等の選択においては季節感や建物に合ったサイズ感も検討する。



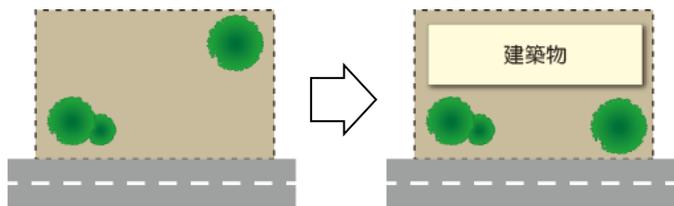
道路側や建築物に近い位置に植樹し、圧迫感を軽減する



中高木を組み合わせ配置し、滑らかな視線誘導につなげる

既存の樹木等をできる限り保全するとともに、自然の植生に配慮した緑化に努める。(山のゾーン、里のゾーン)

計画地に状態の良い既存樹がある場合には、出来るだけ保存又は移植して活用する。また、新たに緑化を行う際は、在来種を使用したり、周辺で使われている樹木を選択することで自然植生や周辺景観に調和させることができる。

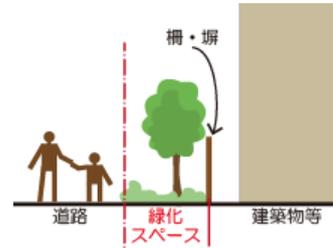


計画地の中に良い樹木がある場合には、それをいかした建築物の配置とするか、樹木の移植を検討する

●外構・緑化

塀や柵等は、植栽と一体となった意匠となるよう配慮する。(山のゾーン、里のゾーン)

塀や柵の前面(道路等公共の空間側)に緑化のスペースを設ける、または柵や塀を低く抑え、敷地側の植栽が見えるように配置するなどの工夫により、一体的になるように配慮する。



集落景観を特徴づける石垣や生垣、樹木等はできる限り保全する。(里のゾーン)

市民に親しまれている樹木等がある場合や、石垣、生垣の連続性等が集落の特徴となっている場合は、出来るだけそれを保全・継承する。



連続する生垣



大切にされている樹木

駐車場は、閑散とした印象とならないよう敷地内の緑化や舗装等による修景に努める。(まちのゾーン)

道路に面した部分や角地など、公共の空間から見える範囲は可能な限り緑化を行う。道路側に樹木等の植栽が難しい場合には駐車スペースに芝生等の地被植物を植える、角地や駐車場内の分離帯などに植栽を行うなどの工夫をする。

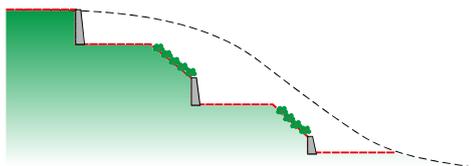


緑化を行った駐車場の例

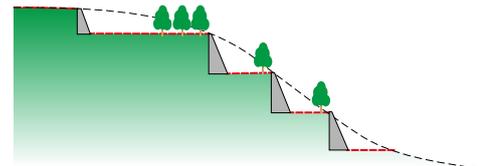
<開発行為、土地の開墾及びその他土地の形質の変更>

土地の造成を行う際は、地形をいかし、地形の改変が最小限となるよう努める。(全てのゾーン)
造成後の敷地、擁壁等においては、可能な限り緑化を行う。(全てのゾーン)

土地の造成を行う際は必要最小限にし、既存の地形をいかしたものとなるよう配慮する。また造成後は必要に応じて緑化を行い周辺からの見え方にも配慮する。



のり面と擁壁を組み合わせ、
擁壁も緑化ブロックなど
景観に配慮したものとす



擁壁を細かく分割し、見上げた方向、
見下ろした方向どちらからも目に入るような
植栽を検討する

＜開発行為、土地の開墾及びその他土地の形質の変更＞

樹木の伐採は極力抑え、所々に現況の緑を残すよう配慮する。(全てのゾーン)

必要以上の樹木の伐採は控え、建築物や駐車場等を設ける際は、敷地緑化に既存の緑を活用する。

＜土石の採取・鉱物の採掘＞

既存の樹木等はできる限り保全・活用する。(山のゾーン)

道路等の公共の場所から地肌の露出が目立たないよう採取・採掘位置等の工夫を行う。(山のゾーン)

必要以上の面積の掘削や樹木の伐採は控え、採取・採掘後は可能であれば植樹を行う等、修景に配慮する。

＜木竹の伐採＞

道路等の公共の場所から見える場所において林地開発を行う際は、伐採面積は必要最小限とするとともに、伐採の位置や方法、伐採後の植栽等で景観的影響が最小限となるよう配慮する。
(山のゾーン、里のゾーン)

林地開発を行う際は、道路等の公共の場所から見えないように、植栽もしくは景観に配慮した柵や塀により遮蔽し、大景観もしくは中景観の中で目立たないように配慮する。

●目隠しの設置

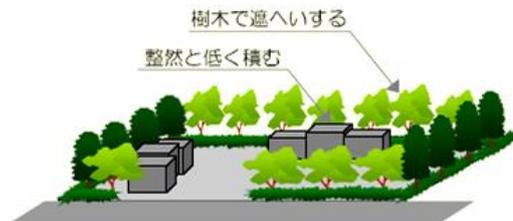


＜屋外における物件の堆積＞

可能な限り、道路等の公共の場所から堆積物が目立たないような配置とするよう努める。
(全てのゾーン)

堆積の高さは必要最小限に抑え、植栽や塀による遮蔽を行う等配慮する。(全てのゾーン)

屋外で物件の堆積を行う場合には、堆積物が乱雑にならないよう整理してなるべく低く配置し、可能であれば道路等の公共の場所から見えないように、植栽もしくは景観に配慮した柵や塀によって遮蔽する。



<特定照明>

周辺の生活環境に配慮し、過度の明るさや動きのある照明は使用しない。(里のゾーン)

住居系市街地や工業系市街地では、周辺の生活環境に配慮し、過度の明るさや動きのある照明は使用しない。(まちのゾーン)

安全性や効率性を確保した上で、必要最小限とし、周囲の景観に配慮した意匠とする。また、照明器具本体の意匠は、昼間の見え方や建築物等との一体性に配慮したものとする。

星空や月などがきれいに見える場所などについては、点滅照明や動きのある照明は避ける。



商業系市街地では、過度に明るい照明の使用は避け、魅力ある夜間景観の創出につながるよう配慮する。(まちのゾーン)

特定照明(回転灯や点滅灯、サーチライトのような、大容量光源のものや可動式のもので周囲に光害を及ぼす影響のあるもの)は避ける。

必要以上の明るさや、使用する色の種類が多い照明は控える。

<色彩基準のマンセル値について>

色彩景観を考えていく際に、色に関する基本的な事項と、基準を定める際に用いるマンセル表色系について解説します。

○マンセル表色系

色彩を表すための尺度のひとつです。JIS（日本工業規格）などにも採用されている国際的なものです。「色相」、「明度」、「彩度」の3つの尺度の組み合わせによって色彩を正確に表現します。

○色相とは？

赤、青といった「いろあい」を表します。マンセル表色系では、10種類の基本色（赤、黄赤、黄、黄緑、緑、青緑、青、青紫、紫、赤紫）の頭文字をとったアルファベット（R、YR、Y、GY、G、BG、B、PB、P、RP）とその度合いを示す0から10までの数字を組み合わせ、10Rや5Yなどのように表記します。また、10RPは0R、10Rは0YRと同意です。

○明度とは？

明るさを示します。マンセル表色系では、0から10までの数値で示します。暗い色ほど数値が小さく、明るい色ほど数値が大きくなり、10に近くなります。実際には、最も明るい白で明度9.5程度、最も暗い黒で明度1.0程度です。

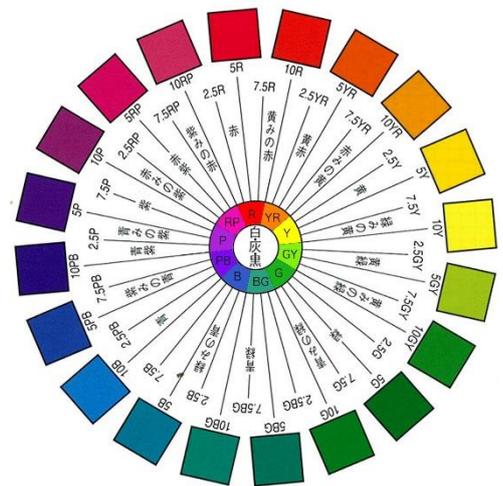
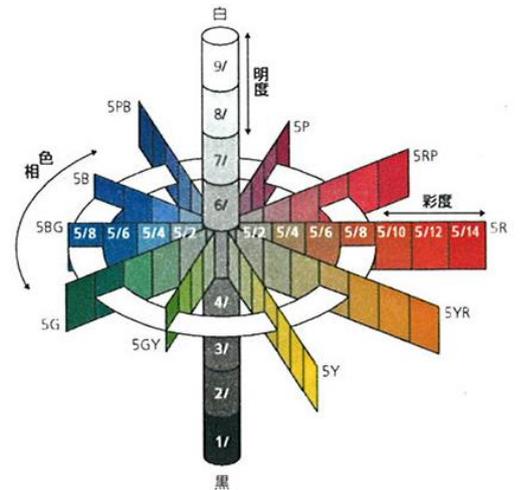
○彩度とは？

鮮やかさを示します。マンセル表色系では、0から14程度までの数値で示します。色味のない鈍い色ほど数値が小さく、白、黒、グレーなどの無彩色の彩度は0になります。逆に鮮やかな色彩ほど数値が大きくなり、赤の原色の彩度は14程度です。最も鮮やかな色彩の彩度値は色相によって異なり、赤や橙などは14程度、青緑や青などは8程度です。

○マンセル値の表し方

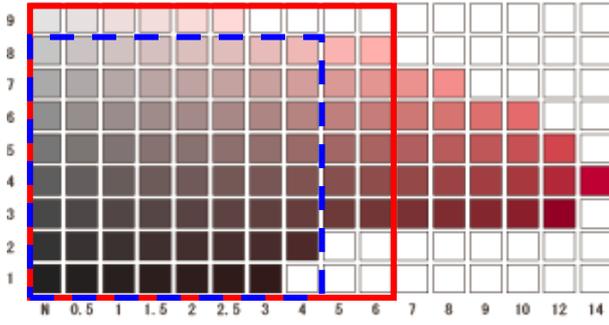
例えば右の写真に示す「えびの市交流物産館（道の駅）」の壁面に使用されている茶色は、マンセル値では「5YR 3/1」と表現されます。これは「5YR」が色相（橙系）、「3」が明度（比較的暗い）、「1」が彩度（無彩色に近い）を表し、以下のように読みます。

ごわいあーる	さん	の	いち
5 Y R	3	/	1
色相	明度		彩度

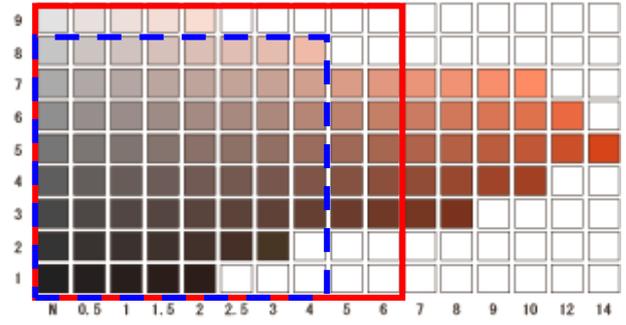


えびの市交流物産館（道の駅）

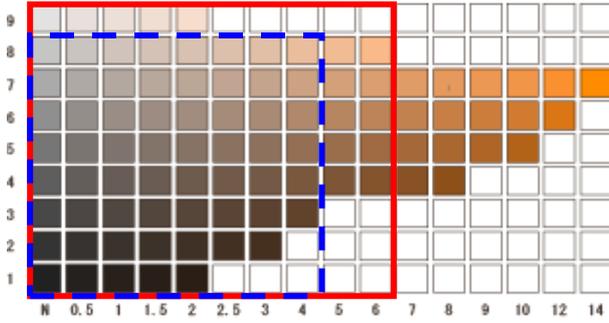
5R



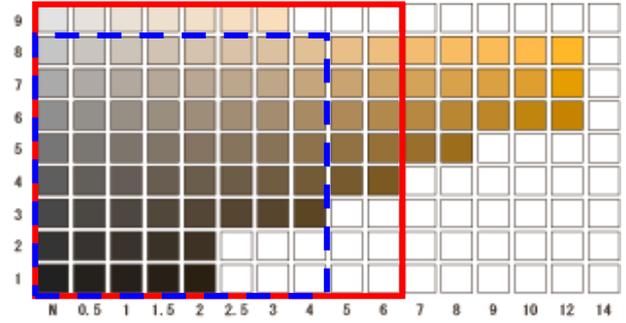
10R



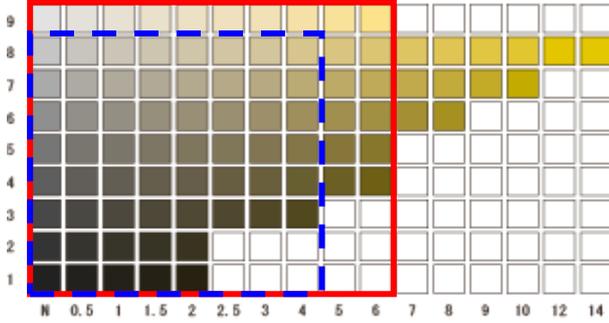
5YR



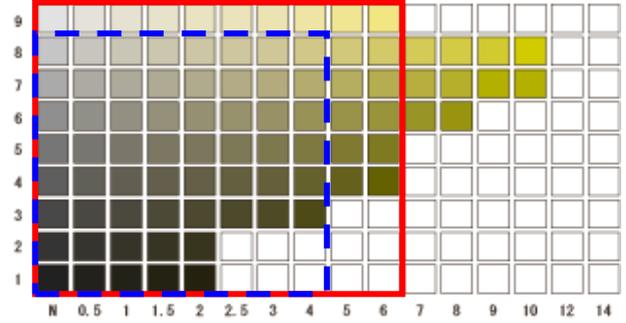
10YR



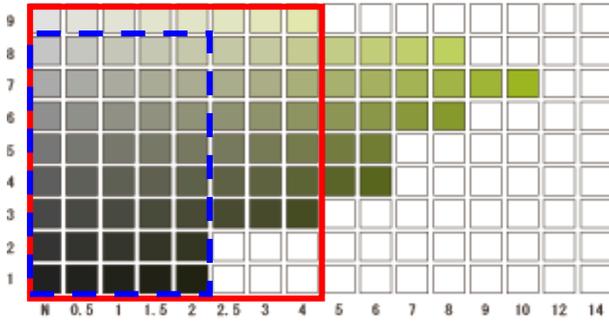
5Y



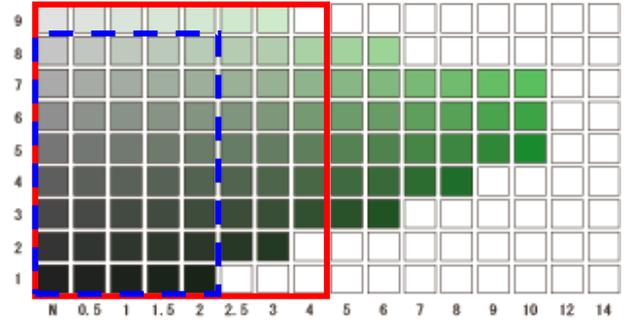
10Y



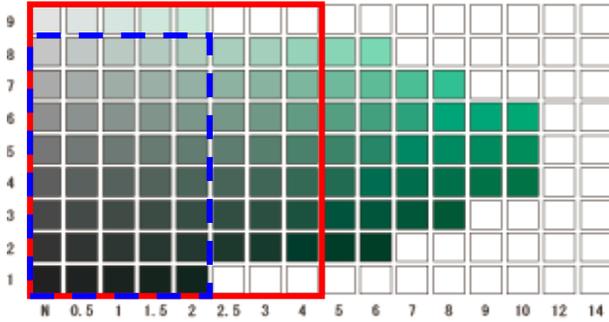
5GY



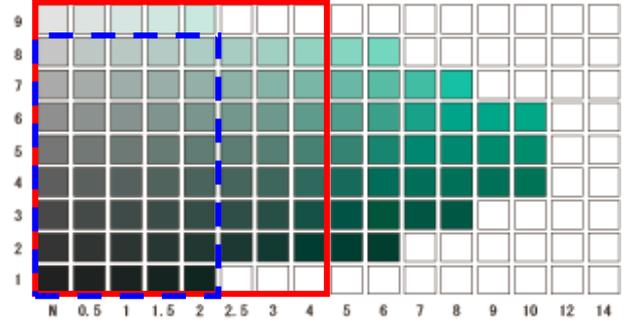
10GY



5G



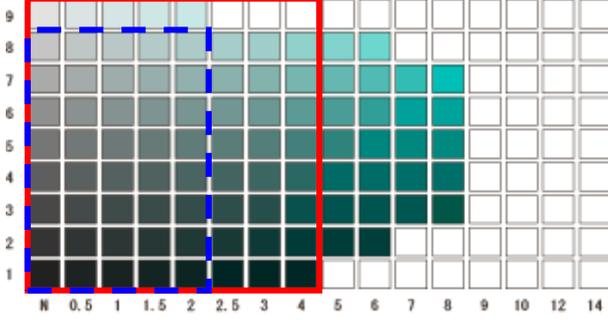
10G



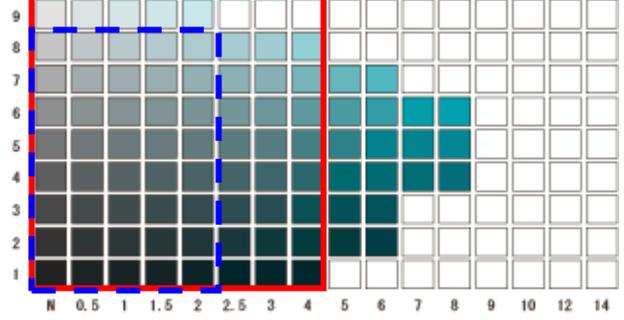
山のゾーン・里のゾーンの色彩基準

まちのゾーンの色彩基準

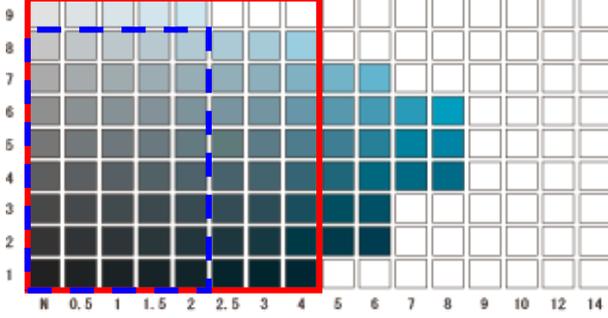
5BG



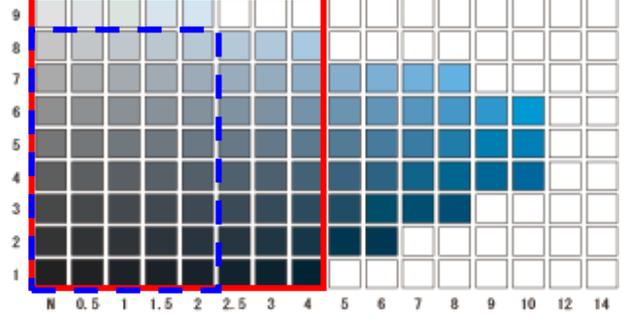
10BG



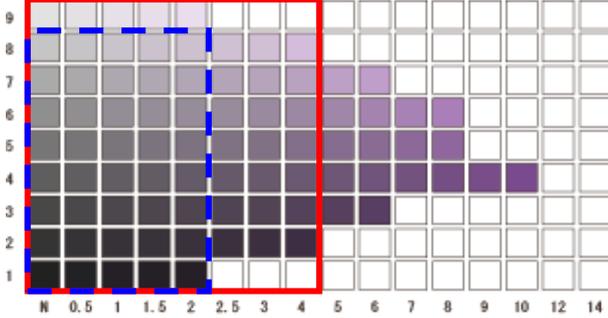
5B



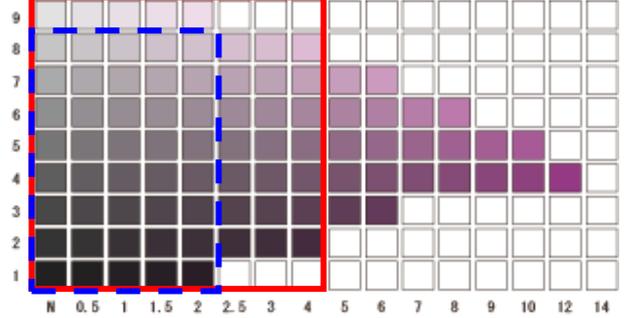
10B



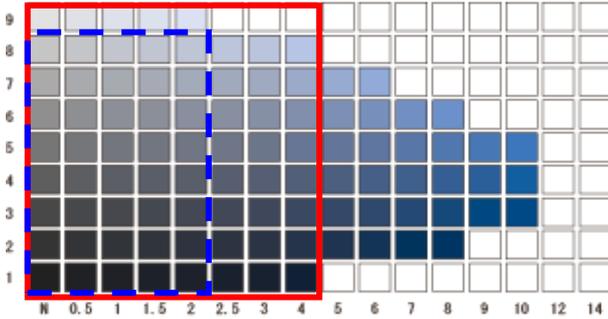
5P



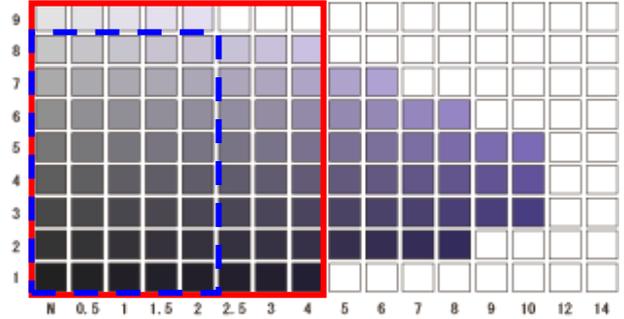
10P



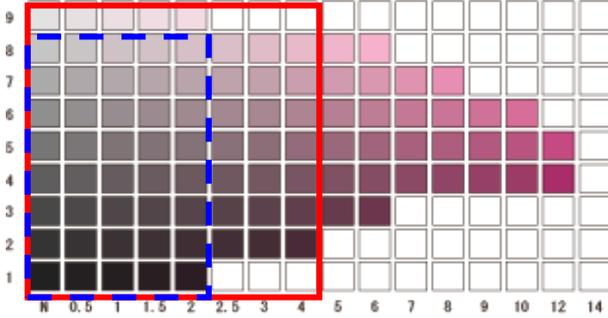
5PB



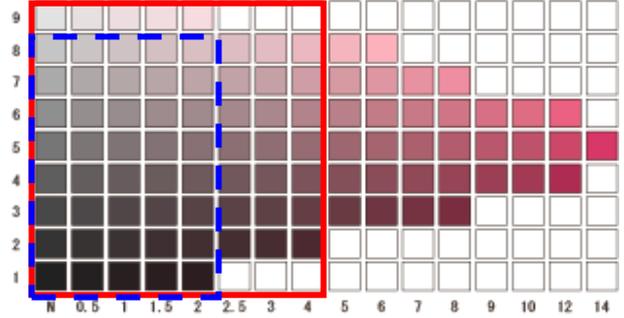
10PB



5RP



10RP



山のゾーン・里のゾーンの色彩基準

まちのゾーンの色彩基準